

■ 島根県公立大学法人評価委員会からの平成27年度業務実績に関する評価を受けての改善策

評価委員会からの「大学の教育研究等の質の向上」項目に対する評価の遅れている点(課題がある点)	島根県立大学の改善策
<p>○ FDセンターにおいて、授業の内容及び方法の改善を図るために組織的活動が行われているが、キャンパスによって取り組みの進捗に差が生じている。浜田キャンパスでは、授業アンケートの回答率が低いため、回答率の向上を図りながら、学生の授業評価を的確に把握し、授業の改善に活用されたい。また、授業公開を定着させるなど、組織的な取り組みに期待する。 【No25】</p>	<p>□ 浜田キャンパスでは、平成28年度から授業アンケートの回答率向上のため、アンケート回答期間を従前の2週間(授業回次14回と15回)から前後1週間を加えて4週間とし、授業回次13回・14回・15回と学期末試験終了まで回答できるようにした。平成29年度からはスマートフォンでの回答を促進し、QRコードの表示を行う。また、平成30年度からはアンケートシステムの更新を行い、アンケートに回答しやすいシステムの構築を計画している。学生の授業評価の的確な把握を目指して、授業評価の高い教員にFD研修の講師を依頼するなど、教員のモチベーション向上の取り組みをFD委員会で実施する。 □ 授業公開についても引き続き実施し組織的な取り組みを行う。平成28年度は試行実施としたが、授業公開は春学期7名、秋学期3名、授業参観は春学期2名、秋学期0名であった。なお、当初は1週間の期間設定としたが、公開可能教員からは初回と最終回の授業を除いてすべて可能との申し出があり、実際には期間設定は行わず参観を募集した。</p>
<p>○ 浜田キャンパスの入学者に占める県内者の割合はオープンキャンパス、高校訪問などの取り組み強化などにより、今年度は28.8%と昨年の23.7%より5.1%上昇したが、一昨年以前の水準には回復していない。大学の特徴など一層の周知に努めるとともに、県内高校生や地域のニーズをつかみ、進学先として魅力のある大学づくりに取り組まれたい。 【No2】</p>	<p>□ 県内高校の進路指導担当教員を春40校、夏28校、秋22校訪問し、浜田キャンパスの学びや入試に関する情報提供を行った。引き続き、県内高校への情報提供や説明を積極的に行っていく。 □ 新規事業として「学びの共有プロジェクト」を実施し、本学学生を浜田高校に2回、江津高校に1回、飯南高校に1回派遣し、本学の学びでどのように成長できるのかを直接高校生に伝えた。 □ オープンキャンパスで初の合宿を開催し、12名の枠に22名もの応募があった。県内参加者のうち6名は自己推薦入試で合格している。 □ 志願者が伸び悩んでいる自己推薦入試においては、平成31年度入試より、①安心して受験していただくため、第一段階選抜を11月に行い、不合格者への通知を早めに行うこと、②英語外部検定や資格・検定試験結果を利用した大学入試センター試験「みなし得点」を導入することで、特に専門高校・総合学科卒業生の受験機会を増やすこと、を決定している。 □ 進学先として魅力のある大学づくりに取り組むため、県の有識者会議での議論を参考にしたり、県内高校等へのヒアリングを行っているところである。</p>
<p>○ 県内就職については、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(GOC+)」により、平成31年度までに県内高等教育機関(島根大学、島根県立大学、松江高専)で10%増の目標を掲げて取り組んでいる。浜田キャンパスの県内就職率は25.2%であり、そのうち県内出身者の県内就職率は57.8%と昨年より8.9%の上昇がみられるが、県内企業の魅力に触れるインターンシップ参加者の増加を図るなど一層の取り組みに期待する。 【No35】</p>	<p>□ ジョブカフェと連携し、県内企業の魅力に触れる機会を提供する。 ・就職フェア、しまね学生インターンシップ、1dayバスツアー等への参加 □ インターンシップ入門の履修者は平成28年度は年間150人を超えており、学生の関心の高さがうかがえる。インターンシップへの申し込み段階で志望動機等の確認やキャリアセンター運営委員との面談を行うなど、インターンシップへの参加意欲や学びを深めていけるよう取り組む。 □ 県内の企業や地域で活躍する人と接する場面を多く提供することで、島根の魅力や地域で働き暮らすことについて関心を高めていくため、学生と企業の交流プログラム「ワークカフェ」を実施する。 合同企業説明会とは異なり、話しやすい雰囲気の間を提供し、学生と社会人が本音で対話することで、業界や企業、社会について理解を深めていく。</p>